

2015年度 教養プロジェクト -画家-

橋本ゼミ三年 真野友華

・リスト

1. ミケランジェロ「ピエタ」
2. ラファエロ「アテネの学堂」
3. アルチンボルド 連作「四季」、「司書」
4. フェルメール「真珠の耳飾りの少女」
5. ダヴィッド「ナポレオン一世の戴冠式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠」
6. ターナー「エジプト第五の災い」、「月明かりの中石炭を運ぶ船員」、「ブルー・リージ」
7. コロー「朝、霧の効果」、「ヴィル・ダヴレー」、「ニンフと戯れるアムール」
8. ミレー「晩鐘」、「薪拾い、夕陽」、「星空」
9. モネ 連作「睡蓮」、連作「日本橋」
10. スーラ「ポーラン=ベッサン外港の入り口」、「春のグランド・ジャットのセーヌ川」

・コメント

今回の教養プロジェクトにあたって、はじめて美術の本をまともに眺めた。それまで絵画を見たことがあるのは学校の行事や世界史の資料集くらいであったこともあり、かなり有名どころが多くなったことは否めない。中でもラファエロの「アテネの学堂」とダヴィッドの「ナポレオン一世の戴冠式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠」はまさに高校世界史の資料集で繰り返し見たものである。この二つは絵画の中に込められた小ネタが多く面白いと思ったのが選択した理由だ。また、今回新たに巡り合ったアルチンボルドの野菜や花を寄せ集めた肖像画は高尚でとっつきにくいと思っていた絵画のイメージを変えてくれるものであった。また、思いがけず新たな一面を知ることとなったのが、ミレーの絵である。

「落穂拾い」や今回挙げた「晩鐘」など農民の生活に密着した絵が有名なミレーだが、今回強く印象に残ったのは「星空」という絵である。夜明け前なのか、少し明るい地平線と紫がかかった空、そして何よりきらきらと光る星々が描かれたこの絵は、絵画であるにもかかわらず星の瞬きが見て取れるような美しさが目を惹く。勢い余ってパソコンの壁紙に設定するくらいに、今回一番気に入った絵であった。有名な画家の有名な絵以外にこうした発見が出来たことはなんだか隠れていた宝を見つけたようでうれしかった。

今回初めて知った画家の中ではターナーが最も気に入っている。神話の一部を描いた油彩（今回選んだ「エジプト第五の災い」等）も有名だが、ターナーの真骨頂は水彩画であると言われている。今日使われている水彩画の技法でターナーが使っていなかったものはなかったと言われるほどであるという。ターナーの水彩画の最高傑作と言われているのが「ブルー・リージ」で、陽光に照らされた明るい空を背景に、空の色を透かしたような真っ青な山（島？）が中央に置かれている。空の絵が好きなのでどうしても選ぶ絵が偏ってしまうのだが、ターナーの水彩画は総じて淡い空の色が綺麗である。ぜひ実物を見てみたいと思った。